

学校教育目標



須和田が丘

夢 に向かっていく生徒
命 を大切に作る生徒
絆 を互いに深め合う生徒

令和4年度
学校だより No. 5
令和4年 4月15日

市川市立第二中学校
校長 石田 清彦

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

グループ担任制について

今年度、3学年では「緩やかなグループ担任制」を導入しています。グループ担任制とは、学級担任を1人に固定せず、複数の教員がグループになって学級を担任する方法です。

本校の場合は、6クラスを、1, 2組, 3, 4組, 5, 6組の3グループに分け、2クラスを3人の教員が学級担任として受け持つ形ですが、昨年度の学級担任が当該クラスに中心的に関わる体制は維持しつつ、給食指導や清掃指導、道徳などを定期的にローテーションする「緩やかなグループ担任制」としています。

このことによって、急な環境変化による生徒の不安等を防ぐとともに、複数の教員の多面的な生徒理解を通して、生徒を見守り、個に応じた支援の充実を図ってまいります。また、生徒や保護者の皆様が多様な相談チャンネルを持てるようにします。

これまでの固定担任制は、学級の全てを1人の担任に委ねる面が強く、子どもたちや保護者にとっての学級のよし悪しが、多くの場合、担任にひもつけられる傾向にありました。このため、学級の中で問題が起きた場合には、生徒や保護者の思いに応えたいという強い思いによって、担任が必要以上に問題を抱えこんでしまう状況も、多くの学校で生まれていました。

固定担任制は、良い意味でも悪い意味でも、学級担任が自分の学級に対して責任を強く持ちすぎるところがあり、そのことが逆に、課題を共有しにくい環境や協働を必要としない環境を生み出してきた面もあります。

しかし、給食や清掃、道徳や総合的な学習の時間などにおいて、複数の教員がローテーションによって今まで以上に生徒と関わることにより、生徒の変化やSOSのサインにいち早く気づくことができるようになるとともに、問題を抱えている生徒の情報を、グループや学年全体で教員が共有し、より良い方法で対応できるようになるのです。例えばいじめ問題では、最初の対応によっては、いじめが悪化したり、被害者の生徒が追い詰められたりといったケースも報告されています。多くの場合、学年・学校の教職員集団は年齢やキャリアの異なるメンバーで構成されており、得意分野にも経験値にも個人差があるため、うまく対応できないまま解決になかなか至らないケースも見られています。しかし複数の教員が状況を共有し、自分の学級のこととして迅速に相談することにより、対応のうまい教員が対応したり、ベテラン教員が助言したりして、早期の解決を期待できるのです。

また、複数の目によって、生徒一人一人の良さを、多面的に見ることもできます。

一方、生徒にとっては、幅広い教員との関わりを通して、価値観を広げられるメリットがあります。

給食指導や清掃指導など、これまでよりも多くの場面で複数の教員が関わることにより、相談したいと思う教員が増える面もあります。「あの先生に相談してみたかった」「あの先生の方が話しやすいのに」と思っても、従来の仕組みですと、担任でないからというだけで、なかなか気軽に相談できないこともありました。しかしグループで担任をすると、生徒が複数の教員と話をする機会が増え、自分が相談したい教員に、より気軽に相談することができるようになります。もちろん相談は、グループの担任だけでなく、学年や学校のどの教員にもすることができます。

また、3年生は進路選択の年でもあります。進路事務においても、複数の教員が関わることでミスを防ぎ、事務の進捗も円滑に図られるようになります。進路指導も複数の視点で行うことができます。

このような「グループ担任制」や「全員担任制」を導入する教育委員会や学校は全国的にも増えており、茨城県取手市教育委員会では、市立中学3年生の女子生徒がいじめで自殺した問題の再発防止策として、学級担任を固定しない「全員担任制」を導入しています。

しかし、教員不足が叫ばれる現在にあっては、学級数以上の担任を配置することは難しく、本校でも学校全体で取り組むところまでには至りません。また、担任同士の連携が上手くいかなければ、グループ担任制自体が全く意味を持たないものになってしまいます。

今年度の3年生は、担任経験のある教員9名で学年を構成したことから、「緩やかなグループ担任制」を実現することができ、これまでの仕組みをベースとしながら、バージョンアップを図ることができるのではないかと考えています。

保護者の皆様におかれましては、何卒、ご理解、ご支援を頂きますようお願いいたします。